環境先進地ワークショップ（豊田会場）
～環境にやさしい持続可能な地域づくり～
開催結果概要

日時	平成 18 年 10 月 26 日　14:00～16:00
会場	豊田産業文化センター　視聴覚室
ファシリテータ	加藤 義人 （三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング㈱政策研究事業本部研究開発第 1 部長）
発言者 （五十音順、敬称略）	梅谷 勝利（豊田・加茂菜の花プロジェクト） 杉浦 元　（豊田市環境部環境政策課） 洲崎 燈子（豊田市矢作川研究所） 増岡 義弘（豊田都市交通研究所）
オブザーバー	大城　温（国土交通省中部地方整備局企画部企画課課長）

議論のポイント

現状・課題

<環境問題への取り組みの現状と課題>

- CO2排出量の削減のためには民生部門と運輸部門からの削減が課題
  →・1台あたりのCO2排出量は減少しているが、自動車の利用台数が増加
  ・宅地の郊外化と郊外部における公共交通機関の利便性の低さが自動車利用を助長
- 中部の共通財産として矢作川流域の自然を守っていかなければならない
  →矢作川は自然護岸の水辺が残っている希有な河川
  →森林の管理放棄による生態系の変化や緑のダム機能・防災機能の低下が懸念
- ゴミ問題は地域全体の活動として如何につなげていくかが課題
  →ゴミ排出量の低減、リサイクルを促進させるためには、いかにごみを出さないよう意識を持たせるかが重要
- 地域住民が関心を持ちやすい環境活動の展開から環境問題の啓発
  →地域住民が体験を通して環境について学ぶことができるような仕組み作りができないか

どう改善すべきか？

○環境活動の生活への定着

○環境問題に寄与する技術開発や社会資本整備の推進

○地域住民、行政、産業界、専門家の連携と次世代まで続く仕組みづくり

○環境に優しい行動をとった人にメリットのあるしくみづくり

地域づくり・まちづくりに求められる視点

○環境にやさしい持続可能な地域づくり

- 都市部と山間部を結ぶインフラの充実
- 人々の移動という観点を踏まえたまちづくりの推進
  →・市街地、郊外や山間部双方における公共交通の利便性確保
- 産業界、行政、大学などの研究機関、住民の連携した環境施策の展開
- 自然地や農地を活かしたコミュニティの形成と地産地消の実現
- 地域の役割・機能の明確化と自然地からの適切な転居の推進
  →・高齢者が安心して快適に生活を営むために利便性の高い都市部への転居
- 環境施策を活かした観光地としての魅力づくり
  →・地域住民が楽しく取り組める環境施策を展開
  ・地域資源を活かした地域づくり

第１部：環境問題への取り組みの現状と課題について

○CO_2 排出量の削減のためには民生部門と運輸部門からの削減が課題

・ 豊田市の CO_2 排出量は、2004 年度で 580 万トン。その割合は、産業部門が 6 割、民生部門が 2 割、運輸部門が 1.5 割である。産業部門の CO_2 排出量は、企業の努力により削減されており、今後は民生部門と運輸部門からの排出量を削減していく必要がある。

・ 車の性能が良くなり 1 台あたりの CO_2 排出量は減少しているが、利用される自動車の数が増加している。しかしながら、宅地の郊外化と公共交通機関の利便性の低さも相まって、郊外から都市への移動は自動車利用が中心となっている。公共交通機関や徒歩・自転車へ転換することで、渋滞解消と自動車利用を低減していく必要がある。

・ 平成 17 年度にチャレンジエコ通勤を行い 1 日あたり約 1,000 人が取り組み、5 日間の全体で 5.4 トンの CO_2 削減に成功した。

○中部の共通財産として矢作川流域の自然を守っていかなければならない

・ 矢作川流域は 1,830 ㎢あり、愛知県の約 1/3 を占めている。そのうち 7 割を森林が占め、その約半分は広葉樹林からスギ、ヒノキなどの人工林に植え替えられ、現在では多くが管理放棄地となっている。森林生態系の変化や緑のダム機能・防災機能の低下も懸念されている。

・ また、森林は大気環境の悪化や、ヒートアイランド現象などの都市気候を緩和する役目を持っている。中部の共通財産として如何に保護していくかが課題である。

・ 都市の緑地はまだ少ないが、NPO などを中心に自然再生型の公園の維持活動が行われている。

○ゴミ問題は地域全体の活動として如何につなげていくかが課題

・ 豊田市のゴミ排出量は増加し続けている。ゴミ排出量の低減、リサイクルを促進させるためには 1 人 1 人がいかにごみを出さないよう意識を持つかが大切である。

・ 具体的な取り組みとしては、買物の際、買い物袋を断るとシールがもらえるエコシール制度を導入にしている。年間 600 万枚発行されているが、買い物袋の持参率は 18%にとどまっている。今後、如何に地域全体の活動としてつなげられるよう啓発していくかが課題である。

○地域住民が関心を持ちやすい環境活動の展開から環境問題の啓発

・ 耕作放棄地に菜の花をうえる「菜の花プロジェクト」を推進し、農地の活用、住宅環境の改善、代替燃料としての利用などを推進している。

・ 今後は、地域住民にこのような環境活動を如何に広めていくかが課題で、意識喚起を促すために地域住民が関心を持ちやすい環境活動の展開が重要である。祭りの文化を活用し、体験を通して環境について学ぶことができるような仕組み作りができないかと考えている。

第２部：どうあるべきか・いかに改善すべきか？

○環境活動の生活への定着と環境問題に寄与する技術開発や社会資本整備の積極的な推進が必要

・ 環境問題は地域住民の日々の生活すべてが関わっているという意識を抱かせることが重要で、具体的に何を行うのか、何ができるのかを明確にして、生活の一部として定着するよう行動に移していく必要がある。

・ また、個々人の行動とともに技術開発や社会資本整備で環境問題に寄与できることは積極的に取り組んでいく必要がある。

○産業界、行政機関、大学などの研究機関、地域住民（産・官・学・民）、専門家の連携と次世代まで続く仕組み作りが必要

・ 自然と産業が調和した都市を形成し、環境先進地として他地域をリードしていくためには、産業界、行政機関、大学などの研究機関、地域住民（産・官・学・民）の連携は不可欠である。また、広大な自然地を守っていくためには、専門家を交えた取り組みも必要である。

・ 機関や分野を越えた連携が図れるような横断的なガイドラインをぜひつくるべき。そうすれば個々の取り組みややる気が空回りすることなく、相乗効果を生み出す連携が成り立つのでは。

〇公共交通機関への転換など環境に優しい行動をとった人がメリットのあるしくみづくりが必要

・ 自動車から公共交通機関への転換は急には図れないだろう。同じ自動車利用でも時差出勤や相乗り通勤の推進を進めることで環境負荷の低減を図っていくことが可能である。その際、公共交通機関への転換など環境に優しい行動をとった人にメリットがあるような仕組みを構築する必要がある。
・ 自然地の保護に支障をきたすような行動をとっている人に対しては税負担を義務付けるなどある程度の規制を課し、受益負担の仕組みを取り入れることも必要である。

第３部：地域づくり・まちづくりに求められる視点

〇環境にやさしい持続可能な地域づくり

＜都市部と山間部を結ぶインフラの充実＞

・ 平日は都市部で生活をし、休日は山間部や農地で生活を営みたいという需要も高くなっており、観光地化、特産品の開発をするためにも、都市部と山間部を結ぶインフラ整備が重要である。

＜人々の移動という観点を踏まえたまちづくりの推進＞

・ まちづくりを進める上で、公共交通機関の位置づけを明確にし、市街地でも郊外や山間部においても公共交通の利便性を確保していく必要がある。
・ モデル実験を推進し、環境負荷を軽減させるために公共交通機関の利用を促し、環境問題への意識喚起や気運を高めていくことが必要である。また、無駄な自動車利用を減少させるための規制の検討も必要ではないか。

＜住民、行政、産業界、専門家の連携した環境施策の展開＞

・ 環境先進地域を形成していくためには、住民、行政、産業界、専門家の連携した環境施策の展開が必要である。
・ また、流域圏の自然地を保護していくためには、上下流域の自治体との連携を図っていくとともに、それぞれの地域が有する固有の文化や歴史を活かした地域づくりが必要である。その際、地域住民が主体的に関われるような仕組みづくりが必要である。

＜自然地や農地を活かしたコミュニティの形成と地産地消の実現＞

・ 自然地や農地を社会資本のひとつとして活かし、保護していくためには地域で生産したものを地域で消費していくことも重要である。
・ そのために、自然地を活かしたコミュニティの形成を促すよう地域全体の取り組みとしていく必要があるのではないか。

＜地域の役割・機能の明確化と自然地からの適切な転居の推進＞

・ 居住地、産業地、農地、自然地など地域の役割や機能を明確化する必要があるのではないか。そのために、自然地で生活している居住者の適切な転居を促すことも必要ではないか。
・ 特に山間部では高齢者の多くが生活を営んでいるため、安心して快適に生活を営むために利便性の高い都市部への転居を促すことも必要である。

＜環境施策を活かした観光地としての魅力づくり＞

・ 環境先進地を目指すうえでは、地域住民が楽しく取り組める環境施策を展開し、地域の自然、歴史・文化などの資源を活かした観光地としての魅力づくりも必要ではないか。
・ 治水技術など伝統技術を活かした自然地の保護も地域の魅力づくりにおいては重要である。